

【一薬の魅力③⑨ DX で地域医療の課題解決を目指す 本学主催で勉強会】

2026/1/21 公開



薬学部薬科学科の学生らに医療やAI、データサイエンスを教えている第一薬科大学では、学外から専門家や、福岡県内各地で薬局を運営している企業の関係者らを招いて、6回にわたり勉強会を開いております。

AIなどのデジタル技術を活用して業務を変革していく「DX」によって、地域における医療・介護分野の課題解決を目指して、最新の技術と現場のニーズを結びつけながら議論と交流を行う産学連携の取り組みです。

本学の主催で2024年10月にスタートした勉強会では、とくに「DX推進を担う人材育成の必要性」が議論の焦点になりました。

これまでに招いた講師の先生方と講演テーマは次の通りです。

「ゼロマチッククリニック天神」のマネジメントなどを行っている「Inazma」（福岡市）の古賀俊介氏：「医療DXの現在地」▽医療技術から生まれた問診エンジンとプラットフォームを提供している「ユビー」（東京都）の小出 雄氏：「医療現場における最新の生成AI活用事例」▽医療AIに関する著書が多い、学校法人原田学園（鹿児島市）の平原大助氏：「医療・介護現場のDX戦略～無料AIツールで始める業務改革」。本学の学生も参加し、積極的に質問していました。

さらに11月には「第一薬科大学 創薬・ヘルスケア・スタートアップ カンファレンス 2025」として規模を拡大して実施。聖マリアンナ医科大学（神奈川県川崎市）の小林泰之教授が、過去最多を記録した医療機関の倒産などを指摘したうえで、現場の医療DXの必要性を訴えたのをはじめ、各地から多くの先生方による講演が行われました。

今後も2カ月に1度程度開催していく予定です。本学薬学部長の中原広道教授は「医療DXの取り組みが着実に浸透し、それぞれの企業が抱える固有の課題の解決に活用されていくことを期待しています」と話していました。